

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の変更はないという事で、グループホームの基本方針について日々の職員会議や研修の中で検討中であるが、具体的な言語化には至っていない。理念の実践としての地域交流は職場体験やボランティアの受け入れ、老人会への出席を行っている。高崎山自然動物園、亀塚古墳、大分文化会館へ芸能まわり舞台鑑賞、南大分スポーツ公園でのお花見等、季節の変化や社会的交流を目的として地域の人とふれあう場を増やす行事を企画している。理念と実践のPRとして広報誌を作成したが、近隣への配布、設置には至っていない。	業務会議の記録から、昨年度の外部評価の期待したい内容としてあげた「基本方針の具体化」を進めていこうと苦慮している様子がうかがえました。	抽象的な理念や方針では職員間や利用者(家族)ごとの解釈に差が生じます。施設運営の要となる理念や方針を具体的に文章化する取組みが適切に進むことに期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	城東校区の行事参加や城東・滝尾両校区中学校の職場体験、清掃活動の受け入れを行っている。創立記念行事では城東中学校のプラスバンドや地域のボランティアを招いて交流を行っている。牧4地区合同防災訓練に参加	地域の自治会主催の防災訓練に職員が参加し取り組んでいることや、避難所としての場所提供などを予定していること、地域の学校・生徒との交流などが記録からわかります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の総会で施設の紹介を行っている。また、福祉教育や人材育成への貢献として、城東・滝尾両校区中学校の職場体験や清掃活動、実習生を積極的に受け入れ、高齢者や認知症について説明している。今年度は老人会へ参加し、施設の特徴や棒体操など日々の活動を紹介している。		

4	<p>3 ○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動報告・事故及びひやりはっと報告 ・今後の活動予定 <p>活動報告や事故報告等の中で頂いた意見をサービス向上につなげられるよう行事等の参考にしている。</p>	<p>運営推進会議の記録から、事業所の様子を広く知らせ改善に向けた意見を求めようとする取組みがわかります。地域住民の代表や地域包括支援センター職員などの意見もあり、より効果的に会議を持つようとする工夫もあります。</p>	
5	<p>4 ○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の案内文書や書類等は出来るだけ出向いて提出するようにしており、避難訓練の立会いをお願いする等、協力関係を築くよう心がけている。</p>	<p>行政との連携を大切に丁寧に対応していることが聞き取りからわかりました。</p>	
6	<p>5 ○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>経過記録の書式を見直す事で夜勤者全員に必要性を周知徹底し、利用者様の睡眠・行動パターンを情報共有し、ベッド柵の使用時間短縮につなげる事ができている。</p> <p>他の方法での安全確保として畳を使用する事も検討するが、這っての移動やつかまり立ちなど二次的に転倒・事故につながると判断した。</p> <p>半年に1回ご家族へ取り組みの経過を説明。また定期的にカンファレンス及びモニタリングを行っている。</p>	<p>記録の様式の工夫で職員間の情報共有の徹底と経過記録から分析をして密な対応をし「ベッド柵をはずす努力」を全員でしていることが記録と説明でよくわかりました。</p>	

7	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>全体会の際に人権について取り上げ、虐待を見過ごすことがないよう職員間で意識し合い防止に努めている。 業務改善委員会での学習会の実施。 学習会に参加できなかった職員も含め全職員に資料を配布。 各セクションでカンファレンスを実施。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度を活用する機会（対象者）がなく、研修の機会は持っていないが、制度を理解している職員が対応できるようにしている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所契約の際、管理者がサービス内容等細かく説明している。 また、利用者の認知症の症状等に関する不安や疑問点等の相談に応じ、今後の方針等を確認している。 新入所者の対応（以前より入所希望があった方の受け入れ）</p>		

10	<p>6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年2回、家族会の実施やご意見箱の設置苦情処理委員会を設け、苦情や事故発生時の対応等、改善にむけ取り組んでいる利用者個々の残存機能、ADLレベル、生活パターンを考慮し、閉じこもり防止に向けたケアプラン作成を心がけているご本人のペースが基本ではあるが、午前中のラジオ体操・棒体操、午後のテレビ体操は全員参加とし、声かけ、見守りを徹底とした。</p> <p>散歩に関しては実践できるように検討するも日常化に結びついていない。</p> <p>自力歩行可能な利用者様に対しては温泉館までの移動時、階段での昇り降りを行っている。</p> <p>余暇活動で利用者様の興味のあるものを探し、デイルームで過ごす時間を増やしている。輪投げのゲームを一緒に作成、ゲームの実施。百人一首、カルタ、トランプ等の実施。紅白歌合戦のVTR視聴家事の分担（洗濯物たたみ、湯呑み洗い、掃除）も取り入れる事でメリハリをつけて行っている。</p> <p>「外食したい」との利用者様の要望を反映し、施設での昼食を中止、公共の施設での食事会を実施した。</p> <p>「プレゼントは大好きなステーキが良い」との要望に応じて、お誕生日の企画としてステーキを準備した</p>	<p>家族の面会時や家族会などを利用して、利用者の生活暦や嗜好や意向の把握に努めようとしていることが行事等の記録やアセスメントシートなどから見て取れます。</p> <p>また、把握した意向を日課に反映させるために会議等で検討していることも分かります。</p>	
11	<p>7 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営面に反映されるよう、代表者は「業務改善会議」や個別面談、調査で、運営に関する意見や提案を聞く機会を設け検討している。</p> <p>また、管理者は個別面談や会議、業務の中で聞く様にしている。</p>	<p>現場から見た勤務体制の提案を業務改善会議にあげて職員が積極的に運営への改善提案をしていることが会議記録からわかります。</p>	<p>現場職員からの提案を代表者や責任者があまり時間を置かずに回答する体制が望まれます。提案を試行するなどの取組みで職員の意欲向上につながる実践への展開を期待します。</p>

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職場環境等の整備に反映されるよう、代表者は「業務改善会議」や個別面談を開き、職員の把握や条件等の改善に向け努力されている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験年数や資格を考慮し、外部（施設外）研修への参加の機会を与えている。法人全体で研修委員会を構成し、職員研修を実施している。学習会の実施</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>NPO法人や株式会社等が運営するGHでネットワーク連絡会が組織され、会議や研修会に参加している。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用し、本人の困っていること、不安、要望等、話をよく聞くようにしている。 本人の能力を確認して関わりを持ち、サービス提供する中で関係作りに努めている。「自分の事をわかってきている」という安心感を与えられる対応を心がけている。	
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、困っていること、要望等傾聴し、施設サービスの説明を行っている。 来所時も報告等を行う中で関係作りに努めている。	
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を随時確認し、アセスメントシートに記録。入所後1ヶ月経過を見ながらプランを作成し、本人等へ説明することを心がけている。 初期計画はケアプランの書式にとらわれずに作成し、本人、家族へ説明し承諾を得ている。	
18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過度なサービス提供は避け、本人の残存機能を生かせるようなケアを実践している。本人の能力を発揮できる場面設定を心がけ、利用者ができる作業については職員と一緒にしている。 ・掃除(クイックルワイパー使用) ・洗濯物干し、たたみ ・食事づくり	

19	<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族来所時に体調や生活状況を報告。誕生日は家族の行事を優先している。家での生活パターンの情報を収集し、それに近づけるよう心がけている。日頃の来所を促し、病院受診や散髪等、馴染みの場所へ行く際は、家族に協力をお願いしている。利用者様が一番喜ぶ事として、誕生日にお兄様をお招きし一緒に誕生会に参加してもらうことができた。</p>		
20	<p>8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>行きつけの美容室、医療機関等へは、家族の協力の下、出来る限り関係を続けられるようにしている。</p>	<p>かかりつけ医への通院や行きつけの美容院を家族の協力の下すすめていることが経過記録からわかりました。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>話や気が合う利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立しないよう、席の配置や外出時の車内の席、入浴の組合せにも配慮し、利用者同士が話しやすいようにしている。また、レクを行う際も、孤立せず一緒に楽しめるよう職員が自然な声かけを行っている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院中のお見舞い、退所後の他施設の紹介や申込みの相談に応じている。退所された利用者様に対しての、他事業者や包括支援センター主催の担当者会議へ出席。情報提供を行う。かかりつけ医との関係保持の必要性を退所後利用事業所の看護師へアドバイスする。他サービス利用となってもご本人への声かけを心がけている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「自分の親だったら…」に置き換えて支援している。 施設での生活に慣れていく過程でどのようにして行きたいか、どのようにすると落ち着くのかを把握していくようにしている。 また家族会を開催し、家族の意向も確認している。	家族への連絡記録、毎日の引継ぎや会議、ケアプランなどの記録から、本人の意向や思いを把握する仕組みがあることがわかります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や関係機関から情報を収集している。また入居後も、本人との生活（会話）の中で過去の生活ぶりの情報を収集している。 欠落した記憶、タイムスリップした場面であっても、それが一番落ち着くのであれば、ありのままを受け止められるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定時のバイタルチェックにより健康管理をしている。 最初から無理と決めつけず何でも行ってもらい、有する能力の把握に努め、パターン化している行動等、詳細を把握し記録している。 リスクマネジメントを考慮したサポートを心がけている。自尊心を損ねない取り組み		

26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>家族の意見や要望等は、面会時に汲み取るよう努めている。</p> <p>日々の申し送りとカンファレンスで情報交換や対応策を検討し、プラン作成及び見直しを行なっている。</p> <p>状態の変化に応じてプランを見直し、家族にも説明している。</p> <p>業務マニュアル、個別ケアマニュアルの見直し、作成、活用。</p> <p>日々のカンファレンスの中で情報共有し介護日誌の記入につなげている。</p> <p>新任職員の「わからない」を解決する為に、基本的な業務の評価軸の書式を作成中。検討したうえで今後の新任職員に使用できればと考えている</p> <p>情報の共有、実践にむけて定期的にモニタリング、カンファレンスを実施</p>	<p>面会時の家族からの報告、介護計画のモニタリング記録や支援経過等からも本人の課題を適切な把握する仕組みがあることがわかりました。</p> <p>新人職員でもわかりやすく・・・と書式の改善を試みている過程であることもわかりました。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアプランに沿った問題解決策や、いつもと違うことへの気づきを大事に記録に残すようにしている。</p> <p>またモニタリングで達成度を確認するとともに、カンファレンスで職員の意見を聴き、プラン見直しに反映させている。</p>	/	/
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者の健康状態において家族の協力が得られない場合の病院受診や、日用品等が急に必要になった場合の、購入のため外出支援等、柔軟な対応を行っている。</p> <p>介護保険更新申請時、認定調査の立会い代行</p>	/	/

29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地区の行事（わいわい夢クラブ、城東祭り、全国一斉に催された健康づくりや運動を楽しむ「チャレンジデー」）に参加している。</p> <p>また、地元の植物公園、美術館、スポーツ公園、デパートへ外出し、散策や買い物を楽しんでいただけるよう支援している。</p>		
30	<p>11 ○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医に限らず、それぞれの掛かりつけ医との関係を保ち、適切な医療が受けられている。</p> <p>協力医の定期往診（月2回）で日常生活の情報を共有し、体調管理全般の情報は随時家族へ報告している。</p> <p>家族の受診介助を原則としている。</p>	<p>利用者と家族の意向を踏まえて必要な医療が受けられるような支援を継続していることが看護記録などからも把握できます。</p>	
31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員が日常の関わりの中で気づいた体調の変化等は、日々の申送りやカンファレンスで常に報告し、情報交換を行い、受診等の対応に繋がられている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は情報提供書の提供を行っている。退院時にも病院よりサマリーをもらい、今後の支援の参考にしている。</p> <p>入院中はお見舞いに行くことはあるが、情報は家族にしか伝えないため、情報収集は家族を通して行っている。</p>		

33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>将来的に予測される終末期のあり方について、家族との意見交換、意向、今後の方向性を確認している。</p> <p>近況報告等、状態の変化は随時、家族に連絡し、支援につなげて行くようにしている。</p> <p>施設としての受け入れ体制を再確認</p>	<p>看取りが必要になると予測される利用者については、家族と看取り方の話し合いをし、契約書(仮)を交わしていることがわかりました。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>AEDの設置と操作方法の訓練は行なっている。</p> <p>緊急時対応マニュアルを作成。しかし、訓練は行われていない。</p> <p>救急法や応急手当の研修には順次参加している。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を経て避難訓練を年2回実施。</p> <p>昼間想定(5月)夜間想定(11月)各1回実施</p> <p>11月の避難訓練は、FIGをもとに各セクションで考えた避難シュミレーションをもとに実施</p>	<p>訓練の記録や写真から、職員個々がシュミレーションをしながら適切な体制を整えようとしている具体性のある質の高い取組みがうかがえます。</p>	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必要以上に大きな声で言った為にプライバシーへの配慮を欠くことがあるが、人格を尊重し、本人の同意の確認や自己決定しやすい声かけをするように心がけている。 居室出入り時の挨拶、ノックは必ず行うようにしている。	全体的に個人の居室や私的嗜好を大切にしていることが施設内の現場確認によりわかりました。	全体的なプライバシー配慮は図られているが、利用者個々とじっくり向き合っ て人格を尊重するプロとしての視点を研修等で膨らませることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な方については選択肢を少なくし、出来るだけ自己決定出来るよう働きかけている。 外出時は、好きな飲食物等を選んでもらう等、自己決定してもらう機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望等が言える利用者は、テレビ観賞や新聞を読みたい方、横になりたい方等それぞれ希望に添って過ごせるよう支援しており、言えない利用者については、様子観察を行い、会話等コミュニケーションを図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る人は自ら行っている。 困難な利用者は職員が支援し、肌のケア等行っている。 希望者には白髪染めも行っている。 外出時の身だしなみとして化粧の声かけを行っている。衣類のコーディネートも利用者様と相談して行っている。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>月1回の昼食づくりに加え、今年度より夕食づくりも月1回行っている。食事づくりの際は、食材・物品のもらい受け、調理、盛り付けも見守りのもと利用者様と一緒にしている。おやつ作りも含め月に数回のことであり、日常的な支援には至っていない レストラン等に外出に出かけ、好みのものを選んで食べるなど、食事を楽しんでいただけるよう取り組んでいる</p>	<p>行事や集団活動の記録から綿密な計画をして利用者を巻き込み、食事づくりに取り組んでいることがよくわかります。昨年よりも回数を増やすなどの努力がみられました。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>嗜好調査を年1回実施している。栄養士が献立を作成し、介護職員が食事摂取量を記録している。 水分補給は入浴や体操の後にも行い、希望にも応じている。</p>	/	/
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>就寝前の口腔ケアを中心に行っており、歯みがきの声かけや義歯の洗浄を行っている。 歯みがきが困難な方には含嗽の実施 食物残渣が多い方は、随時、義歯をとりはずし、洗浄、含嗽を行っている 定期的な訪問歯科診療の利用</p>	/	/

43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>日中は把握している排泄習慣によりトイレ誘導を行っている。排泄が不規則な方には内服薬を調整する等、排泄がスムーズに行えるよう、各自に合わせた方法で支援している。</p> <p>夜間帯は、転倒予防の為オムツやポータブルトイレを使用している方もおり、定時のオムツ交換と見守りを行っている。職員間で情報を交換、共有することで、一人ひとりの排尿パターンを把握し、清潔保持、おむつ代のコストダウンにつながるよう取り組んでいる</p>	<p>個々の排尿パターンを把握して、排泄誘導や介助を行い、オムツ代のコスト削減が成果として現れたとのこと。会議録や支援経過などから把握。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>内服薬調整による排便コントロール。体操・レク等での運動、水分摂取を促し、予防に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>本人の意思を尊重し、入浴したい時に入浴していただけるよう心がけている。楽しく入浴できるよう、入浴の順番やゆっくり入浴したい方等、個々に合わせて入浴してもらっている。また、職員配置や利用者同士の相性にも配慮している。</p>	<p>介助の体制により利用者に不都合がないように午後からの入浴を原則として支援。入浴に要する時間は個々に合わせていることが聞き取りからうかがえました。天然温泉の環境が現場確認でわかりました。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>消灯時間は21時としているが、就寝時間は各利用者の習慣（時間）で就寝している。日中も居室で休息できるようにしている。</p>		

47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬内容と効果を把握し、個別対応マニュアルにも記載している。服薬後の状態の変化には気をつけ、新しく処方された薬については、その効果等を記録している。薬袋の明記内容をご本人に読み上げてもらったり、職員が読み上げて確認することで誤薬予防を図っている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者の残存能力を活かした役割として家事の分担を明確化して行っている。(居室の掃除、洗濯干し、洗濯物たたみ、布団干し、お茶パック詰め、おしぼり巻き、食事づくり、献立記入など)日々の業務の中にも利用者様と一緒に居ることを探し、やり遂げた時に「ありがとう」「助かりました」「またお願いします」などの声かけを行っている。好きな事を把握し、レクや外出に活かしている。輪投げ(自分達で作成)・百人一首・かるた・トランプ・おはじき・お手玉・だるま落とし・将棋・オセロ・読書・字を書くなどの中から興味のある物、得意な物を見出せるように支援している</p>		
49	<p>18 ○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>全員及び少人数による外出を実施。季節のイベントや買い物目的の外出になっているが、利用者の希望に沿った外出を心がけている。隣接のスーパーへの買い物はおやつの買い出しで日常化しつつある。気分転換、閉じこもり防止としての屋外散歩は取り組んでみたが日常化に至っていない。</p>	<p>軽度の方を中心に近隣スーパーへの買い物などを適宜試みていることが記録からわかります。集団でのドライブや外食なども年に数回行っていることも企画・報告がきちんと記録されていました。</p>	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物時の支払の際、本人にお金を渡し、レジで払ってもらい、金銭感覚を思い出してもらえるようにしている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>居室に電話があり自由に連絡を取り合っている方がおり、電話がない方においても外線電話を取り次いでいる。年賀状は全員が出せるよう支援しており、手紙の投函の依頼があれば対応している。</p>		
52	<p>19 ○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールの壁面に季節感を取り入れた飾り付けを利用者と一緒に作成している。ソファ、植物を設置している。大きなカレンダーを作成し見やすくしている。</p>	<p>掲示物や居室の目印を工夫した様子と食卓の座席の配置やトイレの消灯設備等細かな点にも配慮されていることが現場確認でわかりました。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールには自分の席や共有のソファを設け、互いに話をしたり、いつでも新聞、テレビが視聴できるよう配慮している。子ども好きな利用者もいることから、子どもの人形を共有のテーブルに飾り、手に取れるようにしている。</p>		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に、使い慣れたものや大切にしている物を持ってきて下さるよう家族に協力をお願いし、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。</p> <p>居室はテレビ、電話の設置が可能となっており、コタツを入れた方もいる。</p>	<p>ベッドや家具の位置などを個々の利用者に合わせて使いやすいようにレイアウトしていることが現場からわかります。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>屋内は段差がなく、壁は手すりを、トイレもバーを設置しており、屋内は移動も含め安全で自立した生活ができるよう工夫している。</p> <p>表示物では居室を花の名前に統一し、トイレの文字も大きく表示、テーブルにも名前を貼り、「できること」や「わかること」を活かせるようにしている。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない